



二〇一五年二月十日
印刷
発行

史

窓

第七二号

第 72 号

目 次

論 文

- 初期アメリカの共和主義と安息日郵便問題…………… 常松 洋 (1)
敦煌懸泉漢簡に記録された大月氏の使者…………… 小谷 伸男 (15)

研究ノート

- カントヴィック研究の過去と現在 (上)
—ドーナントによる問題の整理と継承—…………… 山田 雅彦 (39)

史料紹介

- アフマド・イブン・ファドル・アッラー・ウマリー著
『高貴なる用語の解説』訳注 (6)……………谷口淳一 編 (63)

コラム

- 北京留学記 —中国人民大学への留学—…………… 辻原 明穂 (25)

載 録

- 常松洋教授 略年譜・著作目録…………… (41)

- 彙 報…………… (49)

2 0 1 5 ・ 2

京 都 女 子 大 学 史 学 会

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 72

February 2015

Contents

Articles

- TSUNEMATSU Hiroshi, Republicanism and the Sabbath Mail in the
Early America…………… (1)
ODANI Nakao, Da Yuezhi's envoys documented in wooden slips from
a Han postal station of Xuanquan at Dunhuang…………… (15)

Research Notes

- YAMADA Masahiko, L'état des recherches de l'histoire de Quentovic
(1): Autour d'un article par J.Dhont (1962)…………… (39)

Historical Documents

- TANIGUCHI Junichi(ed.), A Japanese Translation of Aḥmad Ibn Faḍl
Allāh al-ʿUmarī's *al-Taʿrīf bi-al-muṣṭalaḥ al-ṣarīf* (6)…………… (63)

Column

- TSUJIHARA Akiho, My Study in Bei-jing: Renmin University
of China…………… (25)

Biographical Notes and List of Works

- TSUNEMATSU Hiroshi…………… (41)

- Miscellaneous…………… (49)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931

京
都
女
子
大
学
史
学
会

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第5・6合併号を発行した
とき(昭和29年)御書きいただいたものです。

二〇一四年度 学会行事

春季学会旅行

三月二四日(月)～二五日(火)

松江・出雲

春季の学会旅行は松江の武家屋敷、八重垣神社や出雲大社、島根ワイナリーを訪れました。今回の旅行も多くの学生にご参加頂き、大変な賑わいを見せる旅となりました。

一日目に訪れた松江での自由散策の時間では、各々が思い思いの場所へ足を運びました。武家屋敷を見学したり、お土産を搜したりと、友人と親交を深めながら楽しい時間を過ごす姿が見られました。また、八重垣神社の縁結び、心願成就占いの池として有名な鏡の池では、古い用紙を池の上に浮かべ、縁の遅早を占う様子が見られました。

二日目に参詣した出雲大社では、神代に遡る歴史の深さに裏打ちされた荘厳さに圧倒されました。島根県立古代歴史博物館にて学ぶことは多く、その歴史の魅力を近くに感じる事ができました。その後訪れた島根ワイナリーではワインやジュースを試飲することができ、多くの学生が深い味覚を堪能していました。

新入生歓迎会

四月一日(火)

女坂を満開の桜が彩る頃、本学史学科は本年度、一二八名の新入生を迎えました。入学式を目前にした史学科ガイダンスにおいて、先生のお話を耳を傾ける新入生の表情は、様々な思いに胸にしながらも新しい環境への期待が感じられたように思います。ガイダンス終了後に少々時間を頂き、史学会と役員を紹介します。至らぬ点もあるかと思いますが、史学会役員一同、新入生のみならず

がより良い大学生活を送れますよう尽力し、サポートをさせていただきます。

新入生のみならずには、四年間という長いようで短い大学生活にて多く有意義な経験をし、京都女子大学で学ぶことの誇りを持って、実りある時間を過ごしてほしいと思います。

新入生歓迎バスツアー

四月四日(金) 善峯寺(京都市西京区大原野)

新入生同士の交流を深めるため、史学科では毎年新歓行事としてバスツアーを行っています。

本年度は本願寺参拝を終えた後、史学科の先生方と新入生のみならずで、京都・西山にある善峯寺へと向かいました。善峯寺は平安中期に、比叡山横川の源信に師事した源算上人によって開かれた寺院で、観音霊場の一つとして信仰され、西国三十三所霊場の第二十番札所となっています。国指定重要文化財の多宝塔や大元帥明王軸があり、国指定天然記念物である遊龍の松でも知られています。

向かう途中のバス内では個性豊かな自己紹介が行われました。入学式以来新入生に見えた緊張も幾分ほぐれ、大変賑やかな道中となりました。史学科ならではの歴史に関する話題や趣味の話題、各々がその自己紹介の内に共通点を見つけ、人の輪を広げる良い機会となったのではないのでしょうか。

春季公開講座

五月二三日(金) J三二〇教室にて

起請文と起請札

本学教授 綾村 宏

東アジアの水戸黄門たち

京都大学教授 金 文京

夏季学会旅行

八月四日(月)～五日(火)

長野・松本

今年度の夏季史学会旅行は、信州長野・松本方面へと向かいました。松本城を始めとし、真田宝物館と真田邸、真田氏歴史館と真田氏縁の地、そして善

光寺を訪れました。恒例の自己紹介やビンゴ大会も盛り上がりを見せ、移動のバス内では大変賑やかな時間を過ごしました。

一日目はまず、国宝として有名な松本城へと向かいました。夏休みの観光客が多く、やや混雑していましたが、城の内部は当時の面影を残し、その建築技術をリアルに感じられる良い機会だったのではないかと思います。その後訪れた真田宝物館と真田邸ではこの地に息づいていた真田氏に関する貴重な資料に多く触れることができ、非常に楽しげな面持ちの学生たちも多く見受けられました。

二日目は真田氏歴史館を訪ね、その後バスは善光寺へと向かいました。多くの観光客で賑わう本堂は荘厳で、重要文化財に指定される山門からの眺望はとて素晴らしいものでした。お昼時だったこともあり、信州の蕎麦に舌鼓を打つ学生も多くいました。

卒業論文中間発表

日本史 一〇月二日(木)・三日(金)・六日(月)

東洋史 九月三〇日(火)～一〇月一日(水)

西洋史 一〇月八日(水)・一〇日(金)

秋季公開講座

十一月三日(木) J三二〇教室にて

贋金造りと信用詐欺師

——資本主義形成期アメリカの社会と文化——

本学教授 常松 洋

「マンガの顔」の歴史から私たちの感覚変容に迫る

京都精華大学教授 吉村 和真

コース分け説明会

十二月一九日(金)

お昼休みの時間を利用して一回生を対象としたコース分け説明会が行われました。出席者にはお茶とお弁当が配られ、昼食をとりながらの説明会となりました。各コースそれぞれの先生方がご自身の扱う分野についてユーモアを交えながら、それぞれの魅力について話してくださいました。一回生は自分

がこれから大学で何を学んでいくのかを考える良い機会になったと思います。ぜひ自身の納得のいく選択をしてください。

卒業生予餞会

二月二〇日(土)

卒業論文の提出締め切り日に恒例の予餞会が行われました。本年度は立食形式で行われ、先生方や多くの四回生が参加して、これまでの努力の日々をたたえ合い賑やかなひとときを過ごしました。

卒業論文は京都女子大学で過ごした四年間の総決算です。先生と相談を重ね、図書館に通って史料や論文と向き合い、友人たちと学生研究室で切磋琢磨するなど、卒業論文の執筆に真剣に取り組んできました。予餞会での達成感と安堵にみちた笑顔は充実した学生生活を表すものでした。

後輩たちも学生生活が実りのあるものとなるように努力を重ね、全員が晴れ晴れした笑顔でこの日が迎えられることを祈ります。

二〇一四年度 史学科講義題目

史学共通科目

講義

日本史概論A	告井准教授
日本史概論B	坂口教授
東洋史概論A	松井教授
東洋史概論B	檀上教授
西洋史概論A	桑山准教授
西洋史概論B	常松教授
考古学	梶川講師
民俗学	根井講師
日本美術史	山本講師
東洋美術史	竹浪講師
西洋美術史	愛宕教授
歴史地理学	中村講師
人文地理学	木村講師

自然地理学
地誌学
講読
史学外書講読Ⅰ
史学外書講読Ⅱ
漢文
ラテン語

史学基礎演習A

演習

史学基礎演習B
史学基礎演習A
坂口・常松・松井・母利・山田教授
梅田・桑山・告井・早島准教授

日本史コース

特殊講義

基礎から学び直す東アジアの近現代史
—日本の植民地問題を軸にして—

京都の近代—その産業化と都市化をめぐる諸問題—
坂口教授

日本近世の身分と社会
『書跡資料』概論
室町幕府とその時代
古代官人社会の展開
摂関期の歴史的位置
近世の神道と陰陽道
近世京都の寺社と朝廷社会
いけ花の文化史—江戸時代まで
いけ花の文化史—明治時代以降

日本近世の身分と社会
『書跡資料』概論
室町幕府とその時代
古代官人社会の展開
摂関期の歴史的位置
近世の神道と陰陽道
近世京都の寺社と朝廷社会
いけ花の文化史—江戸時代まで
いけ花の文化史—明治時代以降

講読

日本史講読Ⅰ
日本史講読Ⅱ
告井・早島准教授、木本・吉住講師
綾村・母利教授、早島准教授

演習

日本史入門演習
日本史演習Ⅰ
綾村・坂口・母利教授、梅田・告井・早島准教授、綾村・坂口・母利教授

日本史演習Ⅱ

梅田・告井・早島准教授
綾村・坂口・母利教授
梅田・告井・早島准教授

東洋史コース

特殊講義

クシヤン王朝の勃興とガンダーラ美術の誕生
(大月氏 クシヤン ガンダーラ美術 東西文化交流)
ガンダーラ美術とキジル千仏洞壁画—仏教説話の展開(キジル 仏教説話 東西文化交流)

朝鮮古代史を考える(百濟史)
古代東北アジア史を考える(古朝鮮・楽浪)
田中講師
田中講師

イスラーム時代西アジア史
イスラーム時代イラン史
明代の天朝体制と華夷秩序
明清時代の天朝体制と東アジア
中国出土文字史料の検討
周代史
儒教思想についてⅠ
古代中国思想Ⅱ

イスラーム時代西アジア史
イスラーム時代イラン史
明代の天朝体制と華夷秩序
明清時代の天朝体制と東アジア
中国出土文字史料の検討
周代史
儒教思想についてⅠ
古代中国思想Ⅱ

イスラーム時代西アジア史
イスラーム時代イラン史
明代の天朝体制と華夷秩序
明清時代の天朝体制と東アジア
中国出土文字史料の検討
周代史
儒教思想についてⅠ
古代中国思想Ⅱ

イスラーム時代西アジア史
イスラーム時代イラン史
明代の天朝体制と華夷秩序
明清時代の天朝体制と東アジア
中国出土文字史料の検討
周代史
儒教思想についてⅠ
古代中国思想Ⅱ

講読

東洋史講読Ⅰ
東洋史講読Ⅱ
東洋史講読Ⅲ
東洋史講読Ⅳ
檀上教授、角谷講師
松井教授
木田講師
岡本講師

西洋史コース

東洋史入門演習
東洋史演習Ⅰ
東洋史演習Ⅱ
谷口・檀上・松井教授
谷口・檀上・松井教授
谷口・檀上・松井教授

特殊講義

一九世紀末以降のアメリカ禁酒運動
全国禁酒法の成立とその実施
アテナイ民主制と女性たち
常松教授
常松教授
栗原講師

元首政期ローマ帝国と神々 桑山准教授

カロリング王権の崩壊と諸国家の生成 山田教授

近世フランスの君主と支配 加来講師

近代フランス国民国家の形成 園屋講師

近代ドイツ・ナショナリズムの展開 園屋講師

近世ポーランド・リトアニア共和国の国家と社会 小山講師

ボロニアと白鷺―ポーランド国家と民族の表象 小山講師

の歴史から 伊藤講師

「カフカスのユダヤ人」…アルメニア人と少数民族 伊藤講師

問題 王寺講師

一八世紀フランスの哲学者たちの中国像 王寺講師

講読

西洋史講読Ⅰ 常松・山田教授

西洋史講読Ⅱ 青木講師

西洋史講読Ⅲ 山田教授、園屋講師

西洋史講読Ⅳ 桑山准教授

演習

西洋史入門演習 常松・山田教授、桑山准教授

西洋史演習Ⅰ 常松・山田教授、桑山准教授

西洋史演習Ⅱ 常松・山田教授、桑山准教授

「注」Aは前期、Bは後期、特記していないものは前後期共通。ただし特殊講義については、同一担当者前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載し、科目名とA・Bの記号は省略した。

二〇一四年度 卒業論文題目

日本史コース

荒木麻理華 役者絵にみる人間関係

石川紗保理 藤原宗忠の熊野参詣に関する一考察

石川 佑美 三河一向一揆についての一考察

石丸 茜 太平洋戦争から見る宣伝ビラの価値

井手口芽依 近世随筆に見る遊女・芸者・芸子

―「嬉遊笑覧」「守貞謄稿」を中心に―

稲垣 智美 京のおばんざい―しまつとぜいたく―

井上真柚葉 石田三成の領地政策

岩瀬 加奈 中世寺社における寄検非違使の実態

上田 薫 中世京都の町組について

大田可奈子 女帝後桜町天皇―月の障り―即位式の

礼服という視点から―

加藤菜摘子 一九一〇年代の間島貿易―通商公報を

通して見た間島三都市―

門田 尚子 戦国期における来島村上氏と河野氏

金川はるか 新選組の資金について

川畑 佑希 桑名の中の諸戸清六郎

北川 綾乃 赤穂事件から見る武士道―大石内蔵助

桐山 芽依 昭和天皇と天皇側近の政治関与―なぜ

六歌仙が六歌仙たる所以―紀貫之の六

百濟 早希 歌仙選抜―

工藤 友里 吉田稔麿について

久保早耶華 若者組と村落共同体の関連性

栗本 実里 南蛮貿易と人身売買―奴隷の行方―

粉川 祥子 弥生時代の始まりを定義する

小林なつき 永田鉄山評の再検討―一九一三年から

金銅 美都 「京都策」第三期―道路整備を中心と

佐伯 亜美 して―

坂野 奈乃 安政期における岩倉具視の対外観

澤井みなみ 鷹芥集からみとれる刑罰観念

塩崎 沙織 近世大名家の奥向における側室

塩出 恵里 雑誌『それいゆ』に見る中原淳一の女

菅沼 恵美 性像

杉本 有沙 藤原四子の内部構造とその事情―武智

鈴木明日香 麻呂と房前を中心に―

千田和貴子 近世京都における捨子

八世紀末期における崇りの発生

室町時代における阿弥号を持つ人々

高橋 里菜 寺社における鳴物停止令の実態

高原 雅美 近世下鴨社と社家―その組織と運営―

高山 沙紀 国分寺創建勅の発布とその背景

田口 愛美 平安初期の儀式にみる芸能―相模儀式―

田中 彩子 「福原遷都」における「遷都」という

表現の使用と認識

谷川佳奈美 長崎の唐人貿易に対する唐通事の立場

土谷 彩香 元禄期の貿易環境の変化をふまえて―

中井 真緒 一三世紀末における悪党増加の背景と

中原 静香 集団化

中原業理奈 規制からみる京都の町家

中村こころ 足高の制からみる享保期の政治と社会

中村 早希 五節舞―予祝から服属へ―

堀氏の越後支配と検地帳からみるその

永井 祥恵 実態

西川麻梨菜 どうして日本は負けたのか―ガダルカ

西田 美咲 平安時代の災害と平安京

丹羽 彩美 日英同盟協約廃棄へのプロセス―『日

伯井沙莉亜 本外交文書』を追う―

「怖」の正体

長谷川綾那 江戸時代小袖が映すもの

平川 恵子 平安時代前期における儀礼の場の変遷

藤本 知佳 明治初期の宿駅制度について

藤本 椋子 伏見扇骨屋仲間の組織と運営

藤原 舞子 沖繩の集団自決―責任の所在を明らかに

藤原理恵子 家紋の重み―江戸大名家の例―

松村 薫 山口県における吉田松陰の取り扱い

松井 桃子 阿衡の紛議―人間関係からみる事件の

様相―

丸池未歩乃 加賀藩における武士道像の変遷―日本近世武士道像との対比―

南 那奈 御木本幸吉の真珠養殖事業―世界に養殖真珠を広めるまで―

宮澤 知世 「餓鬼草紙」にみる中世墓所の様相

宮武 奈央 シベリアの「民主運動」は如何にして起きたのか―新聞と手記から見る―

武藤 花 朝鮮における近代公娼制度―朝日新聞外版からみる―

村上眞衣子 富士講とケガレ―江戸の女性と富士登山―

望月 咲稀 昭和期における高校野球の統制―学生野球の真価を問う―

森本 真未 近世淀川における諸川船の様相

森安 雅 長屋王の変―その背景についての考察―

山中 優実 キリシタン大名高山右近の信仰心と寺社破壊

吉岡 奈美 『葉隠』における没我的忠誠論について

吉原 里香 藤原仲麻呂の乱―その背景と意義―

和田 萌 平安時代における『宿曜経』の受容と発展

東洋史コース

青木 由佳 清末の留日学生と中国の近代化―近代教育に対する貢献と日本の影響―

浅井 瞳 台湾の女性運動と彰化婦女共励会

大谷知恵子 張家山『算数書』―『九章算術』比較を通して―

大橋 侑希 一九三〇年代の上海における抗日救国運動

岡田 后可 アラブのソグディアナ侵攻とソグド人

奥川 貴絵 王莽の中華・夷狄観

勝山 直子 台湾原住民に対する理蕃政策―高砂義勇隊を中心に―

木村 秋里 魂のゆくえ―宗廟・陵寢における祖先祭祀と魂魄観―

木村 友香 本草における茶の起源

金原 奈央 「牡丹灯記」における各人物の役割

國武さくら 泰緬鉄道建設に従事した連合軍捕虜とアジア人労働者

國武 萌 中国古代の復讐観

国広 未来 「港市国家」論―和田久徳説を中心に―

栗谷川早紀 現代トルコにおけるイスラーム―さまざまな信仰形態―

佐藤 初音 秋瑾における女性解放運動と革命運動の関係について

白水 飛鳥 現代イランの女性―教育・職業・結婚―

竹田 史織 中国古代理人攷

富田 彩芽 満州国における「国民」の創出

戸村 仁美 戦後台湾における陳儀政府への批判―国民党内の派閥から―

島本 祥代 神戸華僑と中華同文学校―戦後から日中国交復活まで―

永尾華奈子 清朝後期におけるアヘン政策論争

野中 愛子 身体へのまなざし―古代中国人の身体観―

林 優里 馬建忠とシュフェルト条約

藤本枝梨子 明末奴僕の実態と奴変

堀池 楓 元末万国珍政権の浙東支配とその限界性

前之園知江 中国宋代江南地方の健訟―農業関連を中心に―

松田 沙羅 貶められた名臣、賈充

真鍋 亜衣 明初雲南謫居僧とその周辺

水上 沙耶 中国明末清初の海上政策移行に伴う民衆への影響

峯林佳奈子 中国東夷考―魏志倭人伝から見る倭人―

宮崎しおり 清代の祭天儀礼に見る薩滿信仰

森本 紗里 清朝におけるムスリムと漢人―新疆と甘肅を中心に―

横田 唯衣 ヌール・アッディーンのジハード

早田美沙子 日明国交回復における琉球侵攻の意味合いについて

西洋史コース

井川 舞花 エジプト新王国時代の女性

生地 志歩 ビザンツ皇帝コンスタンティヌス九世モノマコスとその統治政策

上柳 梨沙 ナチ政権下の青少年たち

大西 美穂 一七世紀ロシアの正教と非正教徒

岡田 真歩 アイルランドのキリスト教化と他界信仰

加藤 優香 南イタリアのノルマン・コンケスト

古賀 優子 聖人崇敬の誕生と変容

坂下 祐子 オーストリア皇帝フランツ・ヨーゼフ一世の治世―新絶対主義から立憲主義への移行の要因―

佐々木 滯 ブランデンブルク・プロイセンにおける国家形成

嶋崎明日実 襤褸と拳銃―貧民救済とスコットランド・ヤードの黎明―

白川 秀実 スウェーデン・ヴァイキングによる「まち」の建設―ビルカ、そしてシクトゥーナ―

園田 祥子 ローマ帝国における食文化の変遷と食肉の役割

高柳 奈央 英国民衆とスポーツ娯楽

田村 紗絵 紀元前五世紀から紀元前四世紀にかけてのギリシア演劇

富田 一葉 チェコにおける民族再生運動―言語と民族的英雄の再生―

中尾 衣里 エリザベス一世と女王を取り巻く人びと

中山 愛 奪われた大地―一八、一九世紀の合衆国のインディアン政策―

中山 栞 ミトラス教とコンモドゥス帝

西村 直珠 南北戦争における中央集権化と徴兵暴動

平岩 加名 中世パリのパン―同業組合の枠を超えて―

藤村 有希 ヴェネツィア「帝国」の誕生

保科 桃子 古代ケルトとその周辺―交易とその影

響―

星野 晴香 新アッシリア帝国の統治政策―ティグ
ラト・ビレセル三世を中心に―
甫田衣未花 中近世ヨーロッパとジブシー―記録か
ら見る初期ジブシーの実態―
松原 澄佳 改革される祝祭―十六世紀という時代―
舩田 華乃 キング牧師と公民権運動
松本英里香 シオニズムと国民国家
三宅 美穂 アテナイにおけるソフィストたちの変
容
森川 奈穂 中世カステイリヤ王国と英仏百年戦
山下 涼香 争 オランダ東インド会社

二〇一四年度 大学院文学研究科

史学専攻博士前期(修士) 課程講義題目

特論

日本古代史料研究 告井准教授
古代文書研究 告井准教授
歴史資料関係論文の分析 綾村教授
歴史資料関係史料の分析 綾村教授
中世―織豊期の基本的文献研究 早鳥准教授
中世―織豊期研究の基本的文献を読む 早鳥准教授
近世の神道と陰陽道 梅田准教授
近世京都の寺社と社会 梅田准教授
高橋秀直『幕末維新の政治と社会』を読む 母利教授
笠谷和比古『近世武家社会の政治構造』を読む 母利教授
鶴見良行著『ナマコの眼』を読む 坂口教授
地域の記録を読む 小林講師
古文書の理解と読解 河内講師
古記録の理解と読解 河内講師
周王朝の国制研究 松井教授
元代沿海地域社会の諸問題 檀上教授

明代沿海地域社会の諸問題

中国近世史料1―宋と西夏の史料講読― 檀上教授

中国近世史料2―遼・金・元史料の講読― 木田講師

※儒教思想についてI 木田講師

※中国古代思想史II 富谷講師

前近代アラブ地域のウラマー 富谷講師

イスラーム文化における口承の尊重 谷口教授

※「カフカスのユダヤ人」・「アルメニア人と少数民族問題」 伊藤講師

※一八世紀フランスの哲学者たちの中国像 王寺講師

フラウイウス朝期ローマ帝国とその文化(1) 桑山准教授

フラウイウス朝期ローマ帝国とその文化(2) 桑山准教授

カロリング時代期の流通地理を描く 山田教授

中世都市の公証業務に関する総合的研究 山田教授

西洋近代史特論A 山田教授

西洋近代史特論B 常松教授

※近世ポーランド・リトアニア共和国の国家と社会 常松教授

※ポーランドと白鷺―ポーランド国家と民族の表象の歴史から 小山講師

(※は学部共通)

演習

日本史演習I・II 告井准教授
日本史演習III・IV 綾村教授
日本史演習V・VI 母利教授
日本史演習VII・VIII 梅田准教授
日本史演習IX・X 坂口教授
日本史演習XI・XII 早鳥准教授
東洋史演習I・II 松井教授
東洋史演習III・IV 檀上教授
東洋史演習V・VI 谷口教授
東洋史演習VII・VIII 桑山准教授
西洋史演習I・II 桑山准教授

西洋史演習III・IV

西洋史演習V・VI

「注」特論については、題目が示されている科目は題目を掲げ、示されていない場合は科目名を記した同一担当者が前後期それぞれ別の題目を掲げている場合は、前期・後期の順に掲載した。その他は前後期共通。

史学専攻博士後期課程講義題目

特殊研究

日本史特殊研究II 綾村教授
日本史特殊研究III 母利教授
日本史特殊研究IV 坂口教授
東洋史特殊研究I 松井教授
研究指導 綾村・坂口・松井教授

二〇一四年度 修士論文題目

三谷真里奈 ヘンリ四世の王権と王国統治
柴田 祐希 中近世移行期の毛利「家中」形成と「公儀」
月田 琴美 中世延暦寺における寺内組織の変遷―山門使節を中心に―
松本 恵美 法隆寺東院伽藍と聖徳太子信仰に関する一考察

二〇一四年度 大学院行事

研究発表会・その他

四月二三・二四・二五日 卒業論文発表会
エリザベス一世の統治戦略 M1 森本 奏恵
三国魏における「文学」 M1 小林 望
ヘレニズム期スパルタの国家再興―ナビスによる政策を中心に―

M1 富澤 衣香
ロシア対策からみる伊勢漂流民示達

M1 五十嵐 希
冊命儀礼における賜与物について

M1 野本祐里子
婦好についての一考察

M1 岩崎 未生
「大逆事件」の抗議運動が与えた影響
— 英国での運動を中心に —

M1 楠本 里帆
多摩地域豪農層の行動基盤 — 土方歳三
に与えた影響 — M1 中村早知恵
豊臣政権期の「取次」

M1 大塚 祥子
四月二五日 大学院歓迎会（祇園天竺にて）

六月一九・二〇日 平安前期における入唐僧の仏典将来
— 慈覚大師円仁の目録を中心に —

D1 小南 沙月
日本における米英女子教育方法の受容
過程 — 津田梅子・渡辺筆子を中心に —

D1 鈴木麻倫子
一〇月二〇日 秋期例会

大坂における天明期施行の実態 — 享
保・天保期との比較から —

D1 鷺見 敦子
一一月五・六・七日 修士論文中間発表会

へんり四世の王権と王国統治 M2 三谷真里奈
法隆寺東院伽藍と聖徳太子信仰に関する一考察 M2 松本 恵美

中近世移行期の「公儀」について
— 毛利氏の事例を中心に — M2 柴田 祐希

中世延暦寺における寺内組織の変遷
— 山門使節を中心に — M2 月田 琴美

研究室だより

今年度の史学科は、一二八名の新入生を迎え、二回生一三八名、三回生一四四名、四回生一三三名、五回生以上一五名を加え、全学部生は合計五五八名となりました。また、大学院生は博士前期課程に九名、後期課程に二名の新入生を迎え、博士前期課程一四名（日本史八名、東洋史三名、西洋史三名）、博士後期課程六名（東洋史一名・日本史五名）、特別研修者三名（日本史二名、西洋史一名）、大学院研修者六名（日本史二名、東洋史二名、西洋史二名）となっています。

一月に実施した学部一回生のコース分けでは、日本史六七名、東洋史一八名、西洋史三七名が今のところ決定しています。史学科の教員は現在日本史六名、東洋史三名、西洋史三名、総勢一二名です。この数年、東洋史を専攻する学生も三〇人近くを保っていました。最近の日中・日韓関係の不穏な動向や、中東アジア、アフリカ、ヨーロッパに見られる過激なイスラム勢力が影響しているのか、かなり減少しました。今年度は、二月末に東洋史コースの学生を対象とした台湾研修旅行が予定されており、東洋史コースの学生確保の取り組みもあるのですが、全国的な減少傾向に京女東洋史も巻き込まれそうです。こういう時勢にこそ、アジアの中の日本という観点を養ってほしいものです。

四月の新入生オリエンテーションの一環として実施した恒例の新入生バス・ツアーでは、初めて西京区の西山山中にある善峯寺を訪ねました。五月の春季公開講座、夏季の史学会旅行（松本・長野）、一〇月の卒論説明発表、十一月の秋季公開講座、一二月のコース分け説明会、卒論提出後の予餞会と、慌ただしく一年が過ぎましたが、今年度も史学科のさまざまな行事の裏方として、史学会委員の方々の多大な協力を得ました。これらの行事は彼女たちのサポートなくては成り立ちません。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

今年度もインフルエンザが全国的に流行するなか、一二月二〇日の卒論提出日を迎え、何らかの支障が出るのではないかと危惧しましたが、幸い史学科では問題が起これず、卒業希望者二二二名の全員が提出することができました。インフルエンザはその後もおさまる気配を見せず、予断を許さない状況が続いています。今はただ一月下旬の定期試験、一般入学試験、卒論口頭試問、大学院入試が無事終わり、晴れて卒業式を迎えられることを祈るのみです。

全国的に大学改革が進められるなか、本学でも平成三年度からスタートした新カリキュラムの見直しが行われました。しかし、史学科では新カリキュラムの効果を十分に見極めるため、一回生向けの導入教育である史学基礎演習Aの見直しを行います。大幅な変更は行いませんでした。ここ十数年来、歴史離れが叫ばれるなか、史学科は全国から熱心な学生が集い、史資料に基づいた実証的な歴史研究の方法や、歴史学的思考の方法を学んでいます。学長との将来構想についての懇談会でも、こうした現在の史学科の方針に賛意が示されました。高校における世界史教育のあり方が問われるなか、学生の志向動向も考えながら、京女史学科の歴史教育をどう進めていけばよいのか、十分な検証を行った上で検討していく必要があるでしょう。

平成七年に本学に赴任され、西洋史コースの立ち上げから二〇年間教鞭をとられてきた常松洋先生が、この三月をもってご退職されます。長年にわたる教育・校務へのご尽力、本当にお疲れ様でした。史学科を代表してお礼を申し上げます。

先生は、ご退職後も来年度から西洋史特殊講義などで、非常勤講師として講義を持っていたいただきますが、教員の共同研究室の一角を指定席とされた姿が見られなくなるのは寂しい限りです。博識、その知性と行動力はいまでもなく、いつも洒落たファッションで学生たちの注目を浴びてきた先生、これからも史学科の将来を見守っていてください。

（史学科主任 母利 美和）

学会委員

二〇一四年度の学会運営に協力して下さった学会委員は次の方々でした。例年通り史学会諸行事の企画から運営まで、全般に渡って支えていただきました。篤くお礼申し上げます。

委員長	日本史三回生	津村 有彩
副委員長	東洋史三回生	山田 温子
會計	西洋史三回生	濱垣 桃子
書記	日本史三回生	山下 千晶
広報	日本史三回生	高橋 優
	日本史二回生	秋山 栞穂
	日本史二回生	賀子 夏帆
	日本史二回生	後藤 真実
	日本史二回生	田村 眞結
	東洋史二回生	松田ひかる
	日本史二回生	武藤 真由
	一回生	草川 夏穂
	一回生	清水 彩恵
	一回生	高原 真由
	一回生	玉川 千尋
	一回生	野田 真由
	一回生	橋野いおり

京都女子大学史学会会則

(二〇〇三年三月二〇日制定)

(名称)

第一条 本会は、京都女子大学史学会と称する。

(事務局)

第二条 本会の事務局は、京都女子大学文学部史学研究室に置く。

(目的)

第三条 本会は、史学に関する諸問題を研究し、もって学会に寄与することを目的とする。

(会員)

第四条 本会は、京都女子大学文学部史学科の専任

教員および本会が特に認めた者をもって組織する。

(事業)

第五条 本会は、第三条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1 機関誌『史窓』の発行。

2 講演会、研究発表会。

3 その他必要な事業。

(代表)

第六条 本会代表を一名置く。代表は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。

(委員会)

第七条 『史窓』の発行のために、『史窓』編集委員会を置く。委員は会員の中から互選し、任期は一年間とする。ただし、再任を妨げない。その構成員は以下のとおりとする。

1 編集委員長 一名

2 編集委員 若干名

(総会)

第八条 本会の総会は、一年に一回以上開催し、本会の重要事項を議決する。

(事業費)

第九条 本会の事業費は、京都女子大学学会・機関誌刊行経費、その他をもつてこれに当てる。

(会則の改廃)

第十条 この会則の改廃は、総会の議決を経て実施する。

附則 この会則は、二〇〇三年四月一日より施行する。

『史窓』に関する規約

第一条 京都女子大学史学会（以下「本会」とい

(二〇〇三年三月二〇日制定)

う)は、機関誌として『史窓』（以下「本誌」という)を刊行する。

第二条 本誌への投稿資格者は、本会会員および『史窓』編集委員会が特に認めた者とする。

第三条 原稿は、未発表のものに限る。

第四条 本誌に掲載された作品の著作権は、本会に属する。

第五条 執筆要項などの細則は、別に定める。

第六条 この規定の改廃は、編集委員会の議決を経て、総会の承認を経て実施する。

附則 この規約は、二〇〇三年四月一日より施行する。

編集後記

『史窓』第七二号をお届けします。編集作業にはまだ慣れないことも多いのですが、本年度でご退職される常松教授から無事、ご論考をいただけたことは、編集者冥利につきました。もちろんながら、業績録も掲載しております。ご味読ください。常松教授の長年にわたる学務へのご献身に感謝すると同時に、来年度からも非常勤講師としてご出講いただけるとのことですので、あらためてご指導・ご鞭撻のほうをよろしくお願い申し上げます。

もう一つの企画として本号では辻原さんの中国留学記も掲載しております。日中関係がぎくしゃくする中、現在、中国人民大学に留学し、学業に励んでおられる辻原さんのレポートからは、留学関係書類の提示も含め、等身大の実用的な記述が多く載せられております。こちらもあわせてご覧いただければと思います。

今号は、ご寄稿希望の方が多く、うれしい悲鳴をあげました。次号もこのような調子で原稿が集まればと思いますので、皆様のご寄稿をお待ちしております。

(早島 大祐)

執筆者紹介

常松 洋 本学教授

小谷 仲男 本学元教授

山田 雅彦 本学教授

谷口 淳一 本学教授

辻原 明穂 中国人民大学高級進修生

編集委員

母利 美和 (委員長)

谷口 淳一

桑山 由文

早島 大祐

史窓 第72号

二〇一五年二月四日 印刷
二〇一五年二月十日 発行

編集 『史窓』編集委員会

発行 京都女子大学史学会

京都市東山区今熊野北日吉町三五
京都女子大学文学部史学研究室内
〒605-0855 (〇七五) 五三一―九一〇〇
代表者 母利 美和

印刷 株式会社図書同朋舎

京都市下京区中堂寺鍵田町二
〒605-0855 (〇七五) 三六一―九一二一

※掲載内容の著作権は、京都女子大学史学会に帰属します。